

〈目的〉従来、古着は汚い、安いというイメージが強かったが、最近ではファッション的な面からプラスのイメージでとらえられるものも出てきている。これは古着への価値観が変化してきている表われと思われる。ここでは、ファッションに比較的関心の高い大学生を対象にアンケート調査を実施し、古着に対する意識や価値観などについて考察した。

〈方法〉ここで取りあげる古着は、古着屋、リサイクルショップ、フリーマーケット、バザーなどで入手したものとした。調査対象者の有効データ数は、女子大学生100名、男子大学生93名であり、調査は1997年10月～11月に実施した。調査内容は、①古着のイメージ、②古着の所持品目、③古着の着用・非着用とその理由、④この一年間に入手した古着の品目、⑤古着のメリット・デメリットなどである。

〈結果〉古着を着用する人の割合は男子では65%、女子では34%であり、男子は女子の約2倍も多く利用していた。古着着用者の古着所持品目で多いものは、男子ではTシャツ、トレーナー、ジーンズであり、これらは50%以上の人が所持していた。また女子では、シャツ、Tシャツ、ジーンズであり、60%以上の人が所持していた。この一年間に入手した品目では、男子ではTシャツ、トレーナーが、女子ではTシャツ、ジーンズ、スカートが多いものであった。古着着用者の古着着用理由については、気に入る商品がある、安い、着やすいが男女ともに多くあげた理由であり、また、古着のメリットとして多くあげたものは、男子では安い、種類が豊富、価値がある、女子では安い、価値がある、気に入る商品があるであった。